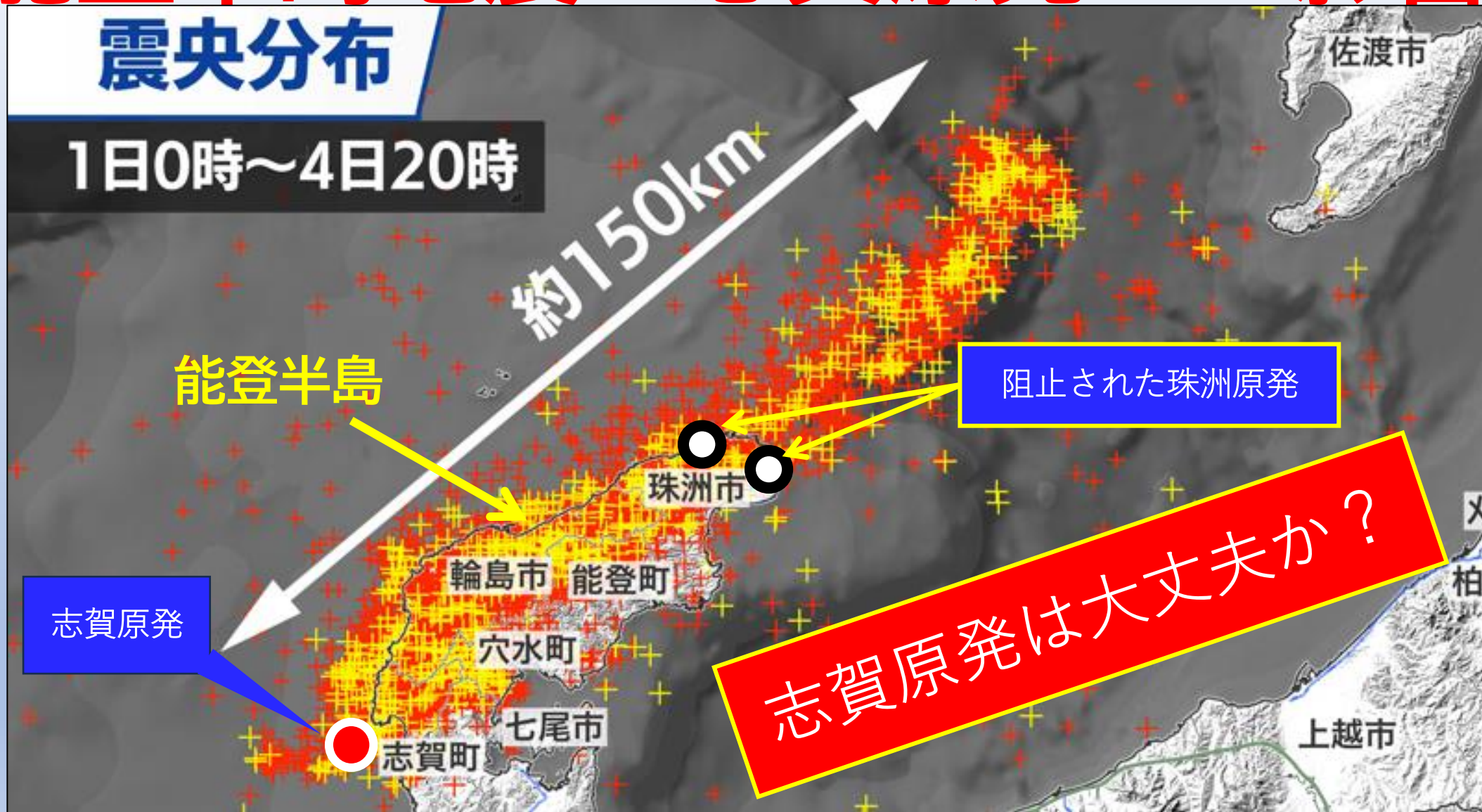


能登半島地震の志賀原発への影響



志賀原発の断層連動、**想定**の96キロ超える 再稼働審査で見直しも(朝日新聞デジタル) 2024年1月10日

●志賀原発2号機の再稼働に向けた審査では、敷地内の断層が活断層かどうかは長く焦点になってきた。

●**12万～13万年前以降に活動したことが否定できなければ、廃炉を迫られる。**





2016 規制委員会の有識者会
合が、敷地内の断層につい
て「**活断層と解釈する
のが合理的**」と評価



2023 「**活断層ではない**」とす
る北陸電力の主張を規制委
員会が認める

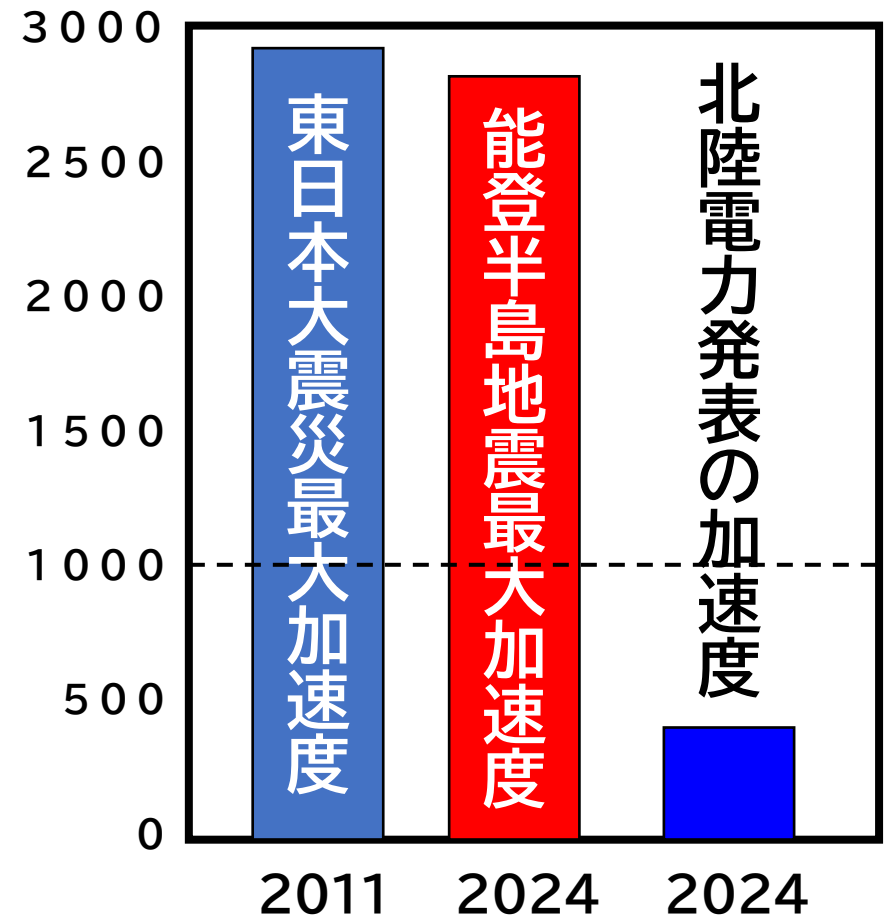
志賀原発(北陸電力)



能登半島地震による揺れ

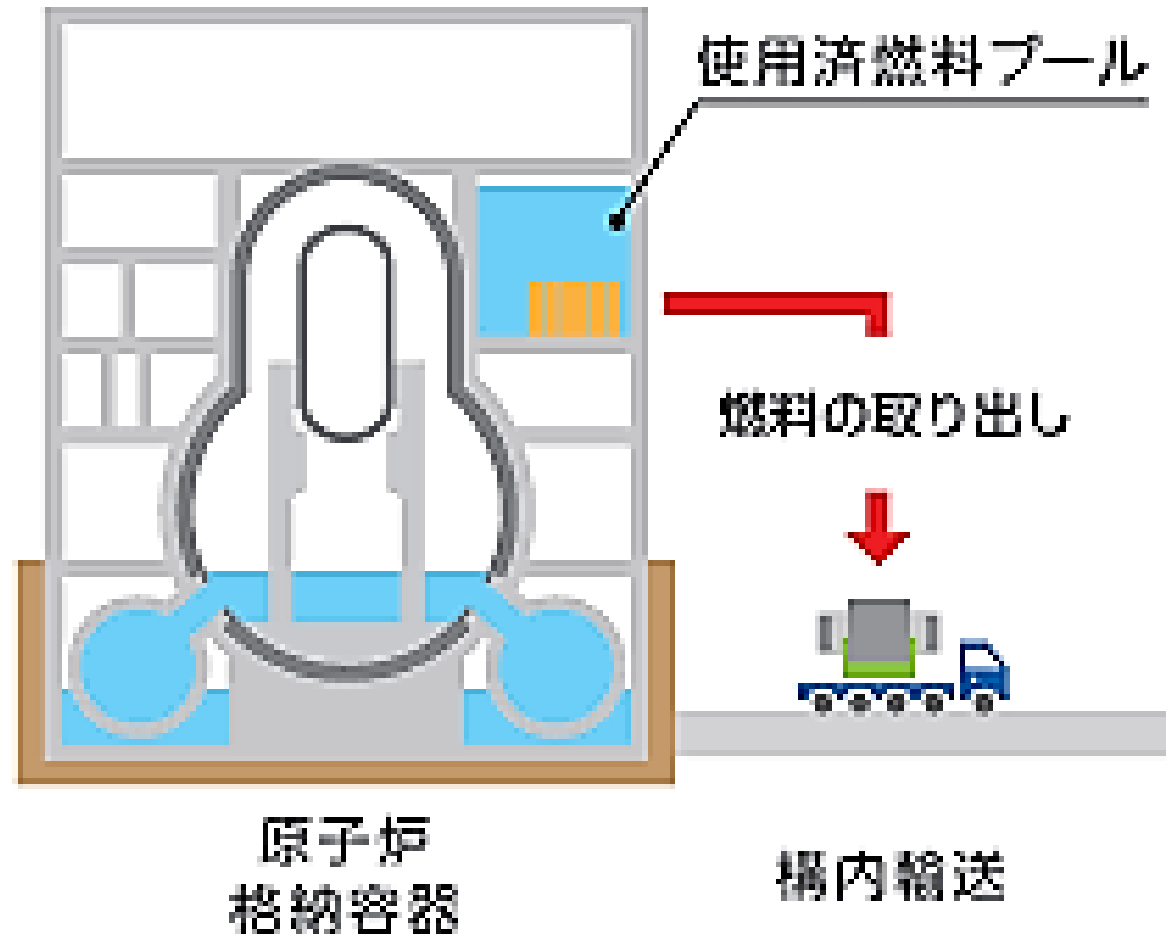
●防災科学技術研究所によると、石川県志賀町の観測点で、東日本大震災の最大加速度(2,933ガル)に近い2,828ガルを記録、輪島市や珠洲市、穴水町など計7地点で1000ガル以上だった。

●一方、北陸電力の発表では、志賀原発1号機原子炉建屋地下2階で399.3ガルだったという報告だった。「1000ガルの基準地震動から見れば余裕」という印象を醸し出した。



原発内ではかなり深刻な被害が出た

使用済み燃料プールの水が大量に溢れ、冷却ポンプが一時停止し、複数の変圧器付近で配管の破損による大量の油漏れがあり、その影響で外部電源の一部系統が使用不能になった。



変圧器からの油漏れ

変圧器からの油漏れについても、北陸電力は1月5日には、志賀原発2号機の変圧器から漏れた絶縁油の量は約3,500リットルということだったが、のちに、実際には約1万9,800リットルだったと訂正されました。



放射能モニタリング・ポストの異常

●北陸電力の当初発表＝モニタリング・ポストでは異常な放射能漏れは観測されていない。

●【1月4日になって訂正】原発の北15キロ以上離れたところにあるモニタリング・ポスト14カ所でデータが確認できていない。



原発構内にも35cmの段差

●【1月5日発表】1号機の原子炉建屋付近や海側エリアなどで最大35センチの段差やコンクリートの沈下があった。



●事故発生時に道路に段差があったり亀裂があったりしたら、**消防や救急の活動に支障が生じる深刻な事態。**



安齋館長が2011年3月11日に
電力企業や政府に提起したこと

- 隠すな
- ウソつくな
- 過小評価するな



志賀原発に注目しよう